婦人と新社會

山田わか主筆

七月號

女權主義者と產業王との對話

新時代が要求する團體生活

基督教が人心を納め得る一ツの秘訣

海外事情

◎英國三角同盟の一角の首領と女優との結婚◎英國勞働婦人の現狀◎佛蘭西勞働婦人の運動

或る民族と母權

時々の感想

教育社會學

何故女性獨特の作用を恥づるか

毎月一回一日發行　第拾七號　大正十年七月一日發行

山田わか著

再版出來

戀愛の社會的意義

四六版三百五十頁　定價金貳圓
總クロース美本　送料金拾五錢

再版の序の一節。『結婚は此の世界を維持して行く一つの原則であります。ですから、人間の一切に結婚があります。又、なければなりません。唯に男女間に計りでなく、思想界にも藝術界にも科學界にも政治界にも商業界にも結婚がなければなりません。眞面目な藝術家は藝術と結婚します。眞面目な職工は自分の扱う材料と結婚します。眞面目な農夫は土と結婚します。かう云ふやうに人間界の一切の原則が皆結婚でありますから其のうちで男と女の結婚は最も大切なもの、最も大きな神秘のしるしであります。本當の結婚をなし得なかつた者の心は粗野でともすると人道の外に飛び出す恐れがあるに反して眞劍に結婚した者は宇宙の創造的精神に合し人道と一ッになつた者であります。世界の創造的意志に自分の創造的意志を結びつけたのであります。そして、此の有意義な結婚は相互平等なる自由な選擇による戀愛の上に成立するものであります。』

東京市四谷區南伊賀町四十一番地
發賣所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

婦人と新社會

七月號

女權主義は個人的であり、人道主義は社會的であります。

女權主義は女性の無政府主義であつて、自己滿足の世界を放浪するために深く根をはつた社會的基礎、則ち、家庭から婦人を切り離さうとするに反して、人道主義は家庭を擁護し、そして、家庭を破壞しやうとする貧乏と人間の弱點と惡德とに對抗しようとします。

女權主義の標語は婦人の獨立であり、人道主義の標語は社會的義務であります。

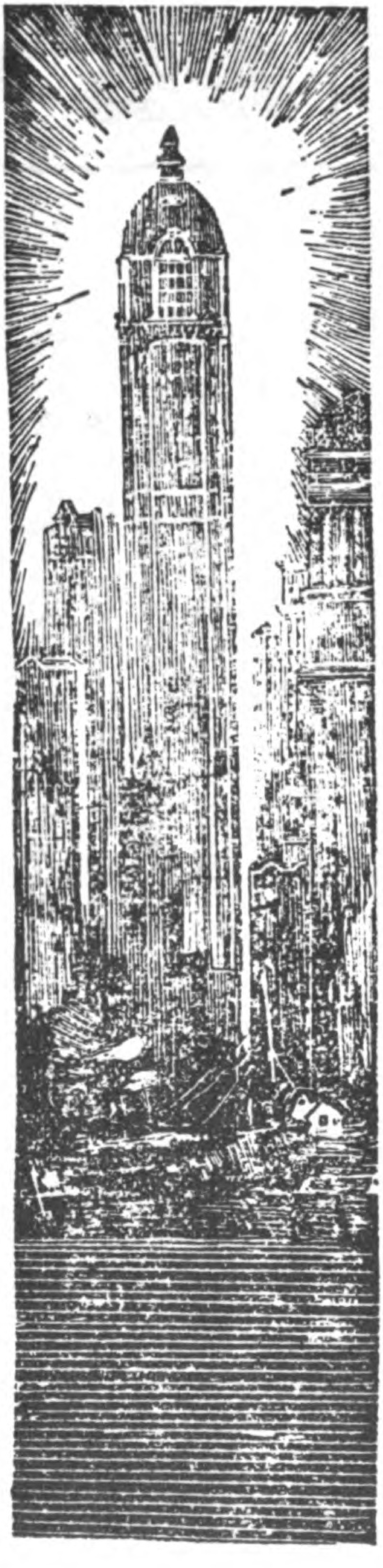
女權主義は男、女、子供を別々にしやうとし、人道主義は男、女、子供の間により密接な關係を造らうとします。

女權主義は性の差別を呪ひ、人道主義は性の差別を讃美します。

女權主義は婦人を男性化しようとし、人道主義は婦人を益々女性化しようとします。

女權主義は婦人の劣つた點を見て悲しみ、人道主義は婦人の優れた點を見て喜びます。

女權主義はより多くの物質的富を造るために婦人を產業化しようとし、人道主義は優秀な人間を造るために競爭の烈しい產業界から婦人を免除しよとします。



女權主義者と產業王との對話

登場者

產業王（產業主義）

書記（必要）

婦人（女權擴張論）

（產業王は大きな望遠鏡を目に當てゝ、眼下に並ぶ小さい家の中に働いて居る婦人を凝視して居た。其の婦人は子供の世話をしながら家事をとつて居た。產業王は暫く其の婦人を眺めた後、宮殿のやうな邸宅の自分の居間に歸へり、そして、書記を呼んだ。其の書記の名は必要と云ふのである。）

産業王　女共は、又、家庭へ這入つて家庭の仕事に囚はれてしまつて居る。私が何時もお前に話す通り、女が家庭のことに精力を費して居ると云ふことは經濟上非常に無駄である。家庭のことは捨てゝ置いて産業に參加しなければならないようにお前は彼女達に云つて聞かせたかね？　私がお前に云ひつけて置いた通りに。

書記　ハイ。けれども、女達は家庭を捨てることを抗んで居ます。

産業王　家庭に縛られて居たのでは一個の奴隷であることをお前は女達に云つて聞かせたかね？

書記　ハイ。そう云つてやりました。けれども、女達は、家庭の奴隷であることはあなたの奴隷であることゝ同じだと申ました。

産業王　お前は女達に充分勞銀を拂つてやると云はなかつたか？

書記　ハイ、申ました。けれども、彼女達は自分達の夫の收入で困りはしないから其れで滿足して居ると云つて居ました。

産業王　仕方のない奴等だ。だが、どうしたつて彼女等を家庭からひつぱり出さな

ければならない。

書記　けれども、どうも、腕力を用ひることも出來ませんし……

產業王　お前は彼女達に經濟上の獨立が立派なものであることを說いてやつたか?

書記　ハイ。けれども、彼女達は家庭內の仕事も矢張り仕事であると申ました。

產業王　そんなら、其の家庭內の仕事と云ふのを女の手から奪つてしまはう。織つたり、縫つたり、編んだりすることを女の手から奪つてしまはう。そうすれば、それだけ、又、私の商賣が殖へることになる。

書記　それでも彼女達は家族のために食事ごしらへをしなければならないと云つて居ました。

產業王　そんなら、彼女等の家の近所へ食料品屋を造つて彼女等が各々に煮焚しなくても間に合ふようにしよう。

書記　併し、彼女達は子供の世話や敎育もしなければならないと云て居ましたが。

產業王　そりや、雜作ないこつた。學校をどん／＼造つて、子供達を皆學校へ入れ

させればいゝのだ。

書記　けれど、小さい子供はどうしても自分の手で世話しなければならないそうです。

產業王　そんなら、幼稚園を造れば女共の手から子供を皆離すことが出來るだらう。

書記　併し、赤ん坊はどうしても離すことが出來ないでせう。

產業王　成程、そうだな。併し、それには托兒所がいゝ。どうしたつて、私は女共を家庭からひつぱり出さなければならないのだ。私の仕事にはもつと〳〵勞働者の手が必要なのだ。收入をもつと大きくして富をもつと大きくするために、安い勞働者をうんと集めなければならないのだ。何んでもかでも女共を家庭からひつぱり出さなければならない。そして、彼女等を工場へ入れ、彼女等を產業化しなければならない。

×

書記　ああ、素晴らしいものですね。あなたの策略はすつかり成功して何千と云

ふ女達が家庭を捨てゝ出て來ました。

產業王　何千！　何千ぢや足りないぞ。百萬は出て來なけりや充分安く使ふことは出來ない！

書記　あゝして多くの女達が出て來ましたが、併し、女は朝から晩迄一つ仕事をして居ることは單調で耐へられないと云つて嫌つてゐます。矢張り、家庭の仕事の方が樂だと云つてゐます。

產業王　そんなら、仕事の量を少なくしてやつて吳れ。勞働時間短縮の規則を造つて吳れ。そして、工場內に腰掛けを造つたり、休息所を設けて吳れ。彼女達を喜ばすために必要ならどんなことをしてもいゝが、とにかく、彼女達が再び家庭に歸らないように工夫して吳れ。

書記　ああ、參ります／＼。あなたは百萬と仰有つたが二百萬參りました。そして、まだ、後から／＼參ります。

產業王　そうか。だが、もつとずん／＼威勢よくあつまつて來るように女の喜びそ

うなものを見せびらかして呉れ。女が充分出て來りやいやでも男の勞働者と競爭と云ふことになる。其處が私のつけ目だ。女勞働者と競爭と云ふことになればどうしたつて男勞働者の勞銀が安くなる。男の勞銀が安くなれば、今迄のように男の腕一本で一家を支へることは出來ない。男は外の仕事を探すようになる。私は、又、一方に於ては、何百萬圓と云ふ廣告料を使つて女の慾望を刺戟するように工夫しよう。そして、女の慾望を強くしよう。そうすると女共は自分の欲しいものを買ふために家庭を去つて賃銀取りとなる。私は一生懸命其の方に努力するからお前はお前で何でももつと多くの女を家庭の外にひつぱり出す工夫をして呉れ。

×

書記　ああ、私は隨分努力致しましたが——まだ家庭を離れきらないで居る女が淨山あります。或る女は云つてゐました。工場の仕事は餘まり苦し過ぎると云ふようなことを。又、或る女は隨分大膽なことを云つてゐました。

事業王　大膽なことつてどんなことだ？

書記　女の位置を改善するために或るものを要求して居るのです。
産業王　それは、一體、何だ？
書記　彼女達は選擧權を要求して居るのです。
産業王　オー、そんなことか。そりや何んでもないことだ。持たしたらい丶だらう。選擧權を持つたつて何にが出來るものか。
書記　併し、私は考へました――
産業王　お前が考へた！　何を考へたんだ。お前は何んにも考へやしないぢやないか。お前には一寸先きが見へない。女達が選擧權を要求すると云ふのは婦人の狀態が私のために好都合であることのしるしだ。つまり、[redacted]女達が少しも落ち付いて居ない不滿であることのしるしだ。そして、彼女達は自分に必要なもの自分の欲しいものを知つて居ないのだ。そして、藁のやうなものを摑まうとしてゐるのだ。女が選擧權を持つたつて何が出來るものか。男が選擧權を持つて以來もう百年以上にもなるだらう。男共が選擧權を持つて居たつて、其れが、毫末も私の商賣の邪魔には

ならながつたぢやないか。男共が立派に選擧權を行使して居る間に私の身代はずん〳〵太つて、そして、私は產業界の巨人と呼ばれるようになつたではないか。私の思ふまゝに勞働者を働かせることが出來たぢやないか。一般男子の投票權は私の仕事に對して一つの小石程の邪魔にもなつて居なかつたではないか。それを、又、女が持つたつてやつぱり同じことだ。

書記　本當に、そうですね。

產業王　だから、女にも選擧權を持たせるがいゝ。それはいゝおもちやだ。選擧に行くと云つても工場の仕事の邪魔になる程時間がかゝるわけではなし、とにかく、家庭から女の心を離すことは私のために好都合だ。政治上女と男を競爭させるがいゝ、今、產業上女と男が競爭してゐるように。そして、其の結果は、皆、私の利潤になるのだ。

書記　あなたの先見は本當に神のやうです。私にはとてもそんな先きの方迄見へません。

産業王　私の目は自分の利益と云ふことに關しては本當に神のやうだよ。だが、私の强敵は家庭だ。至る處に散在してゐるあの小さい家は私のためには敵の要塞だ。競爭と云ふことが皆無で、共同が完全に行はれて居るあの家庭と云ふやつが實際私の仕事をいつも邪魔してゐる。家族のものが安心して落つ付ききつてゐる處、そして、私の利益となるべき男、女、子供等の精力を無駄にしてゐるあの家庭が實際私の敵だ。家庭はどうしても破壞しなきやならない。そして、其處からうまい汁を吸はなきやならない。だから、何でもいゝからお前は家庭の中から彼等を追ひ出す工夫をして呉れ――男も、女も、子供等も。

書記　そう致しませう。

×

書記　今、現に、あなたのお心のまゝに働いてゐる女は八百萬人あります。そして、子供の勞働者が十萬人あります。

産業王　子供の勞働とはうまい考へだつた。紡績や、又、其の他の多くの仕事には

子供の細い指が實に工合ひがいゝ、おまけに、安く使へる。

書記　併し、少し大きくなつた子供迄工場へ出てしまつた後の家庭は赤ん坊と老人許りですが、どうしたものでせう。捨てゝ置きませうか？

産業王　いや、ほうつて置いてはいけない。老人は片つぱしから養老院へ送るがよい。其れが、彼等を處置する一番安い方法だ。そして、赤ん坊は前にも云つた通り托兒所へ入れるがよい。とにかく、家庭と云ふものを空つぽにしなければならないんだ。それが私の目的なんだ。けれども、なか／＼私の思ふようには事が進まない。と云ふのはお前が氣がきかないからだ。まだ、何百萬と云ふ女共が皆家庭の中にぐづ／＼して居るではないか。何故、お前は一日も早く彼女達を家庭の外にひきづり出さないのだ。

書記　お立腹は御尤もですが、今、まだ家庭に殘つて居る女達は、夫の收入で一家を充分に支へて居られるからです。そう云ふ女達に對しては實際私は全く無力です。

産業王　何とか方法がありそうなものぢやないか？　ちと、頭をしぼつて見るがい

ゝッ！

書記　私は私の最善を盡しました。けれど、だめでした。

產業王　惡口をたゝいて見たらいゝだらう。そうして居ちや寄生虫だよと云つてやつたらいゝだらう。

書記　そう云つてやりました。けれども、きゝ目はありませんでした。

產業王　そんなら、家庭は後宮（妾部屋）だと云つてやるがいゝ。そして、今の女の神經は鈍つてもう發達が止まつてしまつて居ると云つてやんなさい。結婚は法律が許した淫賣であることや、それから……

書記　ああ、あなたはお忘れになりましたか？　私には武器が一つしかないことを。そして、それは必要であることを。必要だけでは、經濟上完全に保護されてゐる女達に接近することは出來ないのです。必要の力では彼女達を家庭から追ひ出すことは出來ないのです。

產業王　成程。そんなら、お前はもう無能になつたんだ。外に誰か私の役に立つも

のを探さなければなるまい。……家庭はどうしても破壊して家庭の中のものを皆産業化させなければならない。藝術も宗教も教育も愛も友情も家族其のものも皆産業化しなければならない——そうなつた時に、私は此の産業界の王ではなく、併し、地球上の王になるのだ。

書記　私には、もう、あなたの御用が勤まらなくなりました。あなたは私よりももつと利發なものを助手としてお雇ひになつた方がよう御座います。あの不自由のない女達を家庭から追ひ出すにはどうすればいゝかを知つて居る人を。

産業王　そうだ。お前はうまいことを云つた。お前はもう役に立たない。私の仕事にはもつと熱狂的な、智慧のある人間が必要だ。屋外勞働に從事する必要のない女達をも家庭の外にひつぱり出す腕前を持つた人間が。そして、家庭は女のためには牢獄であり、女としての榮光は家庭外にあるように女達に信じさせることの出來る腕前を持つた人間が必要だ。私の爲にそう云ふ役をして呉れる人間はないかしら?

書記　御座います。あなたのために其の役を勤め得る丁度いゝ人物を私は知つて

ゐます。そして、其れは婦人です。彼女の名は女權主義です。私は行つて其の婦人を呼んで來ませう。

×

（キリ〻とした當世風の女權擴張論者登場。）

婦人　私は永い以前からあなたの素晴しい手腕には驚嘆して居ました。此度(このたび)はお召しによつて參りましたがどんな風にしてあなたの御手傳いが出來ますでせうか？

實業王　私は私の計畫を成功させるために最非貴女のお手を御借りしなければならないのです。一體、人生の目的は富を蓄積することであつて、人間の一切の活動は皆其の目的に添はなければならないものです。そうでせう。であるのに馬鹿な人間共は、私が最高な努力を拂つてゐるにも拘らず、外の方面に精力の大部分を費して無駄にして居ます。何にが無駄な制度だと云つても家庭程無駄な制度はありません。此の實際的の世の中に、家庭尊重などと云ふ意見は、全く、時代錯誤です。そうぢやありませんか。一つの大きな共同竈で間に合ふものを何百と云ふ別々な竈を各家

庭に置くなどは、實際、無駄の骨張です。一つの共同育兒所で間に合ふものを別々の家で子供を育てるなども時間と精力の無駄ですよ。實に、今の人間は男も女も子供も家庭と云ふものゝ中で時間と精力と考へとを無駄にして居るのです。實際、家庭と云ふものが人間進歩の障碍となつてゐるのです。

婦人　本當にお說の通りです。けれども、私の家庭廢止論は家庭が人間の精力を無駄にすると云ふ理由からではなく、家庭は現代人の活動には狹ま過ぎるからであります。併し、家庭廢止と云ふ點に付いてはあなたと同說です。

產業王　はあ、それは好都合です。貴女の意見と私の意見とが共通であることは。これから共同して大いにやりませう。處で、どう云ふ方面から始めたものでせうな。

婦人　第一に處置しなければならないものは家長と呼ばれて居る男子です。父です。夫です。彼は一度は正しく自分の家族をまとめて、そして自分の腕一本で一家を養つてゐました。けれども、それが有害です。もう、彼に一家を支へさせてはならないのです。

産業王　其の準備なら既でに私の方に出來て居ます。何百萬人の男がもう一家を支へることは出來ないやうになつてゐます。

婦人　夫が一家を支へることが出來なくなつた以上は彼は、もう、家長ではありません。從つて、政治的に一家を代表することは出來ません。ですから、婦人が投票權を持たなければなりません。

產業王　私は、既でに、其のことを認めてゐます。大いにおやんなさい。私があなたに御賴みしたい特別な仕事と云ふのは、婦人の獨立心を大々的に動して頂きたいのです。現在の婦人の位置に付いての不滿の種を蒔いて頂きたいのです。現在の婦人の位置は奴隸だとか、束縛だとか云ふような聲を極力高く擧げて頂きたい。何んでも拘はないですから婦人が家庭を捨てるやうな方針をとつて下さい。女子高等教育と云ふやうな言葉もいくらかの役には立ちませう。女子高等教育は結婚を後れさせますから。それはそうと、貴女の御主張の主なるものは何ですか？

婦人　私は男女同權を主張します。

産業王　成程、結構ですな。序でに兩性の差別撤排と云ふことも叫んで頂きたいです。

婦人　そうです。けれども、性の差別撤排の方は、まあ、除々とやりませう。大抵の婦人が其の問題に付いては保守的ですからね。大抵の婦人は、先づ、參政權、これから、經濟上の獨立と云ふ順序で行つてゐます。自分の手で投票をし、自分で自分を支へると云ふ處迄は行きますが、其處で彼女等は止まつてしまつてゐます。

産業王　併し、まあ、お續けなさい。結局、彼女等はあなたの御主張に添ふやうになつて行きます。自由戀愛と云ふやつは駄目ですな。我が國民は其れには我慢が出來ますまいよ。それは餘まりに反逆的ですからな。貴女は、唯、婦人の獨立！　經濟上の獨立！　婦人の生活の獨立！　と云ふことを主張なさればいゝでせう。そうすれば、ツイはに、あなたの目的の全部が達せられるやうになりますよ。

婦人　勿論、私は望みを持つて居ります。そして、私も同じ三段の論法を用ひて居ます。則ち、婦人も一個人である、故に、投票權を持たなければならない。婦人も

一個人である、故に、自分で自分を支へなければならない。婦人も一個人である、故に、性の束縛から解放されなければならない、と云ふ風に主張致します。そして、婦人が參政權を得なければならない、と信じるやうになつた時に、其れから、又、一歩々々と導いて行くことが出來ます。

産業王　そうです〳〵、それに違ひありません。其處で、唯一つ、お話し申上げたいことは、どんな仕事も堂々たる言葉が其れに伴はないと成功しませんね。たとへば、『自家保護』とか、『國家の名譽』とか、又は、『愛國主義』とか云ふやうな大きな言葉が無かつたならば戰爭は出來ないでせう。又、『純潔』と云ふ言葉が無かつたならば禁慾主義と云ふことも覺付かなかつたでせう。産業主義である私としても、もし、『繁榮』と云ふ言葉が無かつたなら、今日の此の成功は見られなかつたゝらうと思ひます。其處で、貴女にも、勿論、そう云ふやうな看板になさる言葉がおありだらうと思ひますが、其れは何ですか？

婦人　ありますとも〳〵。私の看板は『自由』です。私の仕事の全部は其の『自由』

と云ふ名のためです。

盧梁王　成程、見上げたものですね。どうぞ、其の自由の樂の音を全國に鳴り響かせて下さい。

婦人　えい〳〵よろしう御座いますとも。お賴み迄もなく、其れが私の仕事です。婦人よ、自由たれ、と常に叫んで居るのが私の使命です。私は婦人達に向つて、家庭に於ては彼女等は奴隸であること、彼女等の父や夫は暴君であること、家庭の雜事や子供の世話は彼女達のたましひを腐らせるものであること、家庭生活の單調は新しい女には耐へられないものであることを、繰り返へし〳〵して止めません。そして、單に女性であることの墮落から脫しなければならぬこと、彼女等も亦人間たれと常にすゝめて居るのです。

盧梁王　立派なお考へですな。定めし其れを聞いた婦人達は新鮮な氣に打たれるでせう。

婦人　そうです。若い婦人達は私の此の思想に醉はされてしまいます。彼女達に

は驚くべき、美しい、新しいものに響くのです。

産業王 偉いお考へですからな。大思想ですからな。

婦人 勿論、私は婦人達に、家庭内にちゃかまつて居たのでは人間には到底なれないことを説明します。本當に彼女達が人間にならうとするならば、彼女達は家庭を出て自分の勞働を賣り、自分自身を産業化しなければなりませんからね。

産業王 貴女はなかなか話せますね。私の主要とする處の點も其處です。

婦人 婦人を家庭から引き出さねばならぬと云ふ私の目的を私は決して忘れません。家庭の仕事は專門家に任せた方がよろしいのですから、家庭内の一切のことは全然專門家に任せなさいと私は常に婦人達にすゝめて居るのです。

産業王 實際、新しいお考へです。そうしてこそ婦人達は益々解放されますし、又私の商賣にも好都合です。どうぞ其の運動を何處迄も御進め下さい。

婦人 家庭内のあらゆる仕事をそれぞれの專門家に任せること、たとへば、家事は女中に、子供は教師に、針仕事は仕立屋に、家族を樂しませるためには藝人を雇ふ

ように私は婦人達にすゝめて居ます。私は一人の婦人を知つて居ますが彼女はお婆さんの役を職業としてゐる老婦人を雇つてゐます。其の老婦人は毎日々々お菓子を持つて其の婦人の子供を訪ねて來るのです。實際、今は分業の時代ですからね。家庭の仕事を皆專門家に任せてしまへば、從つて、妻達も母達も皆專門家になることが出來ます。そして、自由に家庭の外で活動することが出來ます。

産業王　其れに相違ありません。併し、家庭にへばり付いて居てどうにも動かすことの出來ない婦人達がありますが、其れをあなたはどうなさいますか？

婦人　そう云ふ種類の婦人には私は家庭的都市と云ふことを話して聞せます。そうすると彼女達は興味をもつて聞きます。私は彼女達に云ふのです。都市は彼女等の家庭の一部であることを。そして、道路の掃除から牛乳に付いて話し始めます。牛乳は彼女達の子供が呑みますから、彼女とは密接な關係があります。彼女の夫が使用する煙草に付いて、彼女の家庭で一日も無くてならない石炭に付いて話してやります。そう云ふ風にしてだん／＼導いて行かうと思ひます。彼女達は屠獸場や鑛

請會社を檢査しなければならないこと、及び、商業や農業を監督しなければならないこと、又は勞資の爭ひを仲裁したり、法廷を監督したり、一國の產業、行政、司法制度を規定したりする義務があること、又、何處迄行つても、もう、此處からは家庭に關係はないと云ふ處はないと云ふことを追々說くつもりですが、先づ、差し當りは牛乳と道路の掃除の話で丁度いゝと思ひます。

農業王　先づ、差し當りは其の邊の處でせうね。

婦人　私は、今、あなたに內々御話し申ますが先日私は非常に驚かされました。

農業王　それは、又、何ですか？

婦人　私が主張致しますように、又、あなたの御希望に添ふように、母を家庭から引き出すことは家庭の破壞だと云ふ議論をする人がありました。そして、人種の墮落、つまり、精神虛弱者、精神錯亂者、淫賣婦、惡德、腐敗の增加は其の原因が無家庭にある。母が子供を等閑にして置く結果だと云つてゐました。もし、そう云ふ思想が勢力を持つて來ますと私達の運動は大打擊を受けます。

産業王　もし、そう云ふ思想が勢力を持つて來た場合にはあなたはどうなさるおつもりです。

婦人　私はうまいことを考へました。社會にそう云ふ禍があるから、婦人が政治界に出て立法に參與しなければならないのだと云ひました。

産業王　あなたの其の說明で婦人達は滿足しましたか?

婦人　滿足致しましたとも。婦人達は私の說をまるで水でも呑むやうにすら〳〵と呑み込んでしまいました。そして、其の手で、つまり、婦人が世界を改良しなければならぬと云ふ理由で私は數百の婦人を家庭から引き出しました。外の目的ではどうしても家庭を離れない婦人達であつたのですが。

産業王　あなたは、實に、天才ですね。

婦人　ありがたう。私も此の考へは確かに大きな未來を持つて居ると思ひます。凡ての無產階級の婦人が生活のために家庭を出てしまひます。そうすると彼女達の家庭は事實上破壞になり、惡德の增加となり、社會は苦しみます。社會の苦しみが大

きくなるに從つて、有產階級の婦人も其れを救濟しようとして家庭から出て來ます。こう云ふ風にして最も家庭的な婦人も家庭から出なければならないことになります。そうではありませんか？

產業王　全く、其の通りです。處で、あなたが其のように努力なさつて、そして、あなたの窮極の目的とする處は一體、何ですか？　私が各家庭を空つぽにしようとする目的は私自身が利益を得るためですが。つまり、生產高を增そうとするのです。婦人が皆家庭を出るようになれば其れだけ私の勞働者が多くなる、そして、それだけ私の利益が增すのです。私の目的は單純です。併し、あなたの目的は一體何ですか？　私には分り兼ねるのです。

婦人　（自信ある聲で）お話し致しませう。私の目的は久しい間の男子の治世に對して復讐するのです。男が無くても少しも困らずに生活出來ると云ふことを婦人達に敎へて、そして、男子を職業界から追ひ拂ふのです。男子が無用になつた時には男子はもう無力です。其の時には婦人が最上權を握つて政府をとることが出來ます。で

すから、私は婦人達に如何にして男子を現在の位置から叩き落すべきかを敎へようとして居るのです。つまり、男子を婦人の奴隸にしようとして居るのです。私は婦人に最上權を握らせて此の世界を女性化しようとして居るのです。

產業王　えいッ！　何と仰有る。貴女は世界を女性化しようとするのですか？　エヘン、私は女を產業化しようとするのです。私は此の世界を女の手に渡しません。男は私のいゝ友達です。男があつたからこそ私は今日の位置を得たのです。私は、男があなた方婦人に倒されるのを見たくない。今迄に私が多くの婦人を家庭から引き出したのは男の承諾を得た上のことであつた。けれども、多くの男は婦人を外へ出した結果があなたの云ふようなことになるとは思はなかつたらう。あなたのやうな男に對して危險な婦人が出て來るとは思はなかつただらう。であるから、あなたが並びに女共が目的として居るものを發見するならば、男は必ずあなたの運動を防止する策を講じるに相違ないッ！

婦人　（激昂して）防止する策ですつて！　止められるものなら止めて御らんなさい！

やれるならやつて御らんなさい！　そりや宣戰です！　兩性戰爭の宣言です。よう御座います。私も其れに對して婦人の軍勢を集めます。あなたは男子を煽動して私共の運動に反對させて御らんなさい！　やらして御らんなさい！　いつでも相手になつて御目にかけますッ！

（婦人は小さい握拳を空に振り廻した。其の時、人の足音がかすかに聞へて其れがだん〳〵近づいて來た。婦人は矢でも鐵砲でもやつて來いと云ふやうな態度で足音のする方を睨めつけて居た。男子が這入つて來た。同時に幕が下りた。）ジョン・マーテン夫妻著「女權主義」の中から。

一個人と社會制度との關係は葡萄の莖と葡萄棚との關係と同じです。人の本能を合理化し、社會化し、そして、人を道德的と爲すものは諸制度のうちの最も根本的な制度、即ち、家庭です。ですから、人は家庭と云ふ制度に最も密着な關係があるのです。

葡萄の莖は凡ての生物に共通な生きようとし成長しようとする衝動を持つてゐます。そして其の衝動は葡萄棚と云ふ形式には餘まり重きを置いてゐないかも知れませんが、併し、其の成長しやうとする衝動は其のなくてはならない道具として葡萄棚を利用します。同時に、自分の生命を有効にするために莖は棚のかたちに從つて成長して行きます。そして、莖が發達して葡萄が熟するに從つて棚の構造の特長が葡萄の生活に現れて來ます。丁度、家庭の特長が其の家庭の人々に現れて來るように。



英國勞働婦人の現狀

一

戰爭中、新聞雜誌及び政治家は口を揃へて英國婦人の偉大なる働きと其の價値を稱讃した。けれども、其れは人心が極度に興奮しゐてどんなことでも信じられる時であつた。其の時分に我々は光榮ある軍人の驚くべき功績を聞かされた。處で、其の光榮ある軍人は、今、路傍に立つて靴の紐を賣つたり、或ひは、機械オルガンを廻したりして人の情の露にやうやく覺付かない生存を續けてゐる、と冒頭してメリー●クロスビー女史は英國勞働婦人の現狀を敍して居る。

現今に於ては、少なくとも十三萬人の婦人が――其のうちの大部分は戰死した軍人の未亡人であるが――職業を求めてゐて、そして、其の職業が得られずに居る。處で、これだけの多數の婦人を窮境に陷れた責任は何處にあるかは容易に云ひ難い。今、產業は停滯して居る。戰前に多くの婦人を雇つてゐた贅澤品製造業はまだ、復活しない。そして、軍事品製造に從事して居た婦人が、皆、今は職業を

失つて困つて居るのである。

政府は、少なくとも、三年以前から戰場から歸つた兵士、及び、戰時中男子の代りに働いて居た婦人をどう處置するかに付いては考へて居たようだつた。けれども、其の考へがまとまらない先きに休戰になつてしまつたのである。其處で、政府は以來其の日暮し的の政策をとつてゐる。則ち、一方から苦情が出れば他方を犧牲にして仕末をつける。そして、又、犧牲にされた方の苦情が餘まりに强ければ其れを鎭める方法として新しい局を急設すると云ふように。そして、公金を無駄にしてゐるのである。それは、丁度、燒跡のやうな狀態である。

で、一九一九年米國ワシングトンの國際勞働會議に英國勞働婦人を代表して出席したボンドフイルド女史は云ふ。『私共が戰爭から得たものは、野蠻主義の復活、良心の痲痺、下落した道德、より殘酷になつた個人主義である。』と。

二　英國に於ける戰時勞働者

國民婦人勞働者同盟會の努力によつて一九一八年の十一月、一時的に制定された婦人勞働に對する高い賃銀は其のまゝ一九二〇年九月の終り迄、有效と云ふことになつた。處で、其の期限に達するや否や、多くの婦人勞働者は解雇された。そして、改めて安い賃銀で雇はうと雇主は云ひ出した。必要上、止むを得ず、涙を呑んで安い賃銀で復職したものもあるが、又、或る處では婦人の勞働を一層安い子供の勞働に代へたりした。

そして、これ等の婦人は、戰爭中彼女等が得た社會上及び產業上の位置を永久に保ち得るものと信じて居たのである。實際、彼女等は美術的な仕事熟練を要する仕事、又は、體力を要する仕事もして來たのである。彼女等は所謂自分の仕事に對して誇りも持つて居るし、自分の力をも自覺して居るのである。今は極端に困難な時代であることは誰でも承知はして居るが、併し、政府のやり方によつては其れ等の婦人をも窮境に陷れる必要はないのである。

戰爭の結果の年金局に於ける或る部門の如きは婦人の手で組織され、そして、其の仕事に對する婦人の熟練は目覺しいものであるにも拘らず、其の熟練ある婦人は解雇されて、全く、不熟練な男子が其の代りに雇はれたと云ふ事實もある。

婦人は誰でも戰場から歸つた軍人の要求は認めてゐる。併し、其等の軍人に滿足を與へるために婦人が拂はねばならぬ犧牲が余まり大き過ぎることは遺憾である。職業婦人として立派な經驗があり價値があるにも拘らず、そう云ふ狀態であるから、休戰になると同時に解雇された小學卒業程度の若い女事務員は何處の職業紹介所へ行つても何百と云ふ數で押しよせて居る。

三　家庭勞働組合

婦人の失業者が何處へ行つても溢れて居るにも拘らず、併し、家庭勞働は凡ての婦人に嫌はれてゐる。戰爭以前には家庭内に滿足して働いて居た婦人も、今は

家庭に入らうとはしない。そして、其の理由は、女中と云はれるよりも事務員の方が名目が上品であるように思へるし、又、自由もあるからである。それで、事務員やタイピストの月給はズン／＼低下しつゝあるのだが其れでも多くの婦人は家庭勞働に從事しようとはしない。狀態がそう云ふ風であるから、家庭勞働者の位置を高くしようとする議論も大分盛んであつたし、現に、又、實行の計畫もあつたが、併し、まだ、何等の見るべきものはない。

　家庭勞働者を事務員、又は工女と同じ位置となし、彼女等に修養を與へ、其れを専門業にし、下級な勞働と云ふ考へを取り去らうと云ふ企てがあつた。そして、既でに、設立されてある家庭勞働組合は雇主と被雇者の契約を一定の書式に造つた。此の家庭勞働組合の書記はジェシー・ステファンと云ふ未婚婦人であるが、とにかく、家庭勞働組合と云ふものが設立されてある程、社會の狀態は變つて來て居るのである。

四　婦人の智的職業と熟練職工

職業婦人のうちで最も需用の多いのは敎師である。併し、女敎師は男敎師の五分の四にしか使へないと云ふ世間の定評は面白くないものである。

　オクスフオード大學は婦人の入學を許したし、又、キャンブリッヂ大學でも今より五十年以前に婦人が試驗を受けることを許して置きながら、今それを婦人に抗んでゐると云ふのは、生徒が多過ぎて

敎室が混雜してゐると云ふ處にも大きな原因があるだらう。

女醫は戰爭中、大進歩をした。彼女等の多數が軍醫になつた。そして、病院附きであつた。けれども、一人の女醫ジェーン●ウォーカー女史が苦情を云つたように女醫はどんなに技倆が優れて居ても尉官以上には登ることが出來なかつた。本國に居れば可なり高い位置を保つことが出來るものでも。女醫學生は、今、大いに奬勵されてゐる。そして、醫科大學は男女同じ條件の下に女醫學生の入學を許した。又、此の頃、新設の衛生省のうちで女醫を重要な位置に置くことにした。たとへば、バリー●ランベルトと云ふ女醫は佐官相當の役に附いた。

農業に從事した婦人の仕事は餘り多く認められなかつたが、併し、其の功績は偉大であつた。多くの婦人は勇氣があつて、忍耐深く、非常に早く仕事を覺へた。二百頭の羊を一人で世話したり、畑を鋤く競爭で一人の娘が多くの大の男を凌いで賞を得たりしたのであるが、併し、それは戰時中一時の必要であつたとして保守的な農夫の上に深い印象は殘してゐない。

婦人の職業として仕立物の仕事は可なりにあるけれども、戰爭が生んだ落付きのない職業婦人のためには其の仕事は向きが悪いようである。

五　過度期

失業婦人救濟の計畫は、今迄にもあつたし、今もある。勞働省に於ては、家庭

勞働者、仕立屋、室內裝飾人、又は、機械使用人等を養成した。又、年金省の戰爭未亡人を職業婦人に仕上げようとする計畫は官僚臭くなくやつて居る。又、將校及び兵士達の未亡人も獨立の生活を得るために孜々としてつとめて居る。そして、彼女等のうちの一人が唱歌者になつたことは例外のうちの例外であらう。けれども、大體に於て、矢張り家庭勞働に歸へれと云ふ呼びがあることは其の精神が滅しないことのしるしであらう。

職業紹介所は、今、世間から非常な非難を受けてゐる。雇主と被雇人との間の調和を計らうとする熱誠もなければ同情もなく、甚だへマな經營をしてゐると云ふ評判を受けてゐるのである。併し、此の職業紹介所が完全に其の役目を果した處が、其れは唯此の破壞された國民生活の一部分を修繕する鑄掛屋の仕事に過ぎない。

併し、我々は、妙な、不確かな、解剖のしようない、けれども、何となく偉大な強い力があつて、そして、其の力が押へつけられ切りこまざかれたり、疑はれたりして居ると云ふ過度時代に遭遇してゐるのである。あの戰爭が始まつた時には我々は戰爭後は全く違つた人間に我々がなつて居るであらうと思つて居た。けれども、我々は依然と同じ人間であるが、これは、まだ、過去五年間のあの恐しい氣分が我々のたましひからも肉體からもぬけきらないためであるだらう。

佛蘭西勞働婦人の運動

佛蘭西の『基督敎勞働者同盟』は一九二〇年五月二十四日に設立されたものである。此の同盟のうちに男女の別々な組合が出來てゐて、そして、それ〳〵自由な行動をとつてゐる。其の組合の細則に關しては各々の自由であるけれども、併し、原則は同盟本部が規定した處に從つて居るのである。そして、此の同盟の力は佛蘭西に於ける革命的分子に對して非常に有力であつたと云はれて居る。則ち其の一例としては昨年の五月中の本部からの命令に從ふことによつて、既でに勃發しようとした鐵道從業員の同盟罷業を喰ひ止めたことである。そして、地方々々の支部の組合員がずん〳〵増加して行くことは此の組合の必要を語るものであると云はれてゐる。

で、此の組合が通過させた決議が如何に國民的の調子を帶びて居るかは次の一項を見れば明かである。則ち、

『此の組合は宗敎上並びに政治上の勢力からは全く獨立してゐる。組合の方針は決して國民の利益と衝突するものではない。……傳道師は組合員なる青年男女に宗敎の原則を敎へ、其の敎義の説明を試みるのは自由である。けれども、其の作用的活動に干渉してはならない。』と云ふのである。

此の組合は舊敎徒の手で組織されたものであるけれども、併し、新敎徒も組合員になることが出來るのである。そして、凡ての支部がめい〳〵に其の管轄區域内の問題を處置してしまうので、本部は大體のより大なる問題に其の全力を注ぐこ

とが出來る。たとへば、活動範圍を延長したり、又は、新しい部門を設置したりするようなことに。

で、此の組合に於ける今日の重なる問題の一つは、今の高い賃銀が永久に續くものゝように勞働者に空想を抱かしめて居はしないかどうか？　又、これが結婚の上に、及び、出産率の上にどう云ふ影響を與へるかと云ふことである。又、『一度、經濟上の獨立を得て其の味を占めた婦人が自己の生活に夫を必要とするかどうか？』とか、『婦人は益々利己主義になつて自分の生活を犧牲にしたり、獻身的になることは出來なくなつてゐるかどうか？』と云ふことを問題にして、そして、それに對して、此の組合の會長であり、そして、勞働婦人であり、會員達から多大な信用を受けてゐる一婦人が次のやうに答へてゐる。

『結婚に對する慾望の烈しさは今も昔も同じである。否、大戰後は一層青年達が結婚を急いで居る。けれども、娘達の方は青年達よりも考へ深い。彼女達は用意が出來なくては結婚しようとしない。十五年以前には若い娘は一ヶ月六十フランで働いてゐた。そして、其の半額は母に與へ、其の半額を自分の衣類に費した。けれども、今は、賃銀が高いにも拘らず物價が高いので、其の衣類すら　なかなか出來ない。從つて、以前には二十才前後で結婚できたものが、今は二十五才から三十才になつてゐる。』と。

佛蘭西の婦人は生來の常識と家庭の詳細を熟知して居る處から彼女の豫算を課

まらない。彼女等は、今は、以前の三倍の賃銀を取つて居るのであるが、それが以前程には使へないことを知つてゐる。物價が安くなりさへすれば彼女等は喜んで賃銀の低減を承諾する。で、物價を安くするには生産物を多くするより外に方法はない。物品の拂底が物價をつり上げて居るのだから。處で、此處で興味ある問題は八時間勞働制に對する婦人勞働組合の意見である。彼女等は、英國の週間制度、則ち土曜日の午後と月曜日の午前を、家事を取る爲に休業にする規定を採用しようとする。けれども、其の結果は生産高の低下と云ふことになるのである。

それは、とにかく、佛蘭西婦人が複雑で重大な社會問題を取り扱ひ、そして、必然と思へた階級戰を妨止し得たことは世間の感動する處であつたと云はれてゐる。そして、婦人の其の力は一時的ではなく永久に續くであらうと觀測されてゐる。なぜなら、婦人の爲した其の仕事は全國民の必要から起つたものであり、そして、婦人達の其の力は一歩々々と築き上げて來たものであるからと云はれて居る。勿論、今迄には失敗もあつた。併し、其れは未來のための有益な經驗であつた。此の組合は革命主義のサンデカリストが卑しめ無視してゐる家庭に對して多大の考察を拂つてゐる。

そして、彼女等は、婦人は腕力に於ては決して男子に匹敵するものでないことを認めて、そして、婦人は婦人に適した仕事を選んで、そして、科學的の訓練を受けることによつて、男子とは別な有益

な者にならうとして居る。佛蘭西の勞働婦人は女性と云ふことに大きな尊敬を持して居て、そして、天性に反することは避けようとしてゐる。で、彼女等の標語は、『我々は女權主義者ではない。我々は基督教國の女性である。』と云ふのである。

英國三角同盟の一角の首領と女優との結婚

英國勞働界の大立物、三角同盟の一角、海運業從業員の首領ロバート・ウイリアム氏が五月十二日マクスウエル孃本名スラ・パールマンと云ふ二十三才の花のやうに美しい女優と結婚式を擧げたと云ふので、英國は隅から隅迄其の噂でもちきりだと云ふ話である。ウイリアム氏は當年三十九才の男盛りである。

此の二人の婚約は極く親密な友人ですらも氣付かなかつた位ひ秘密のうちに成立してゐたので世間は殊更に驚かされたわけである。マクスウエル孃の話によると、二人が相知つたのは三年以前だつたそうである。孃が舞台に立つて居た時、ウイリアム氏は見物人の一人であつたと云ふことである。マクスウエル孃は六ヶ月間の契約で羅馬の舞台に出て居たのであるが五月の始めに英國へ歸つて、そして、十二日に結婚式があつたのである。

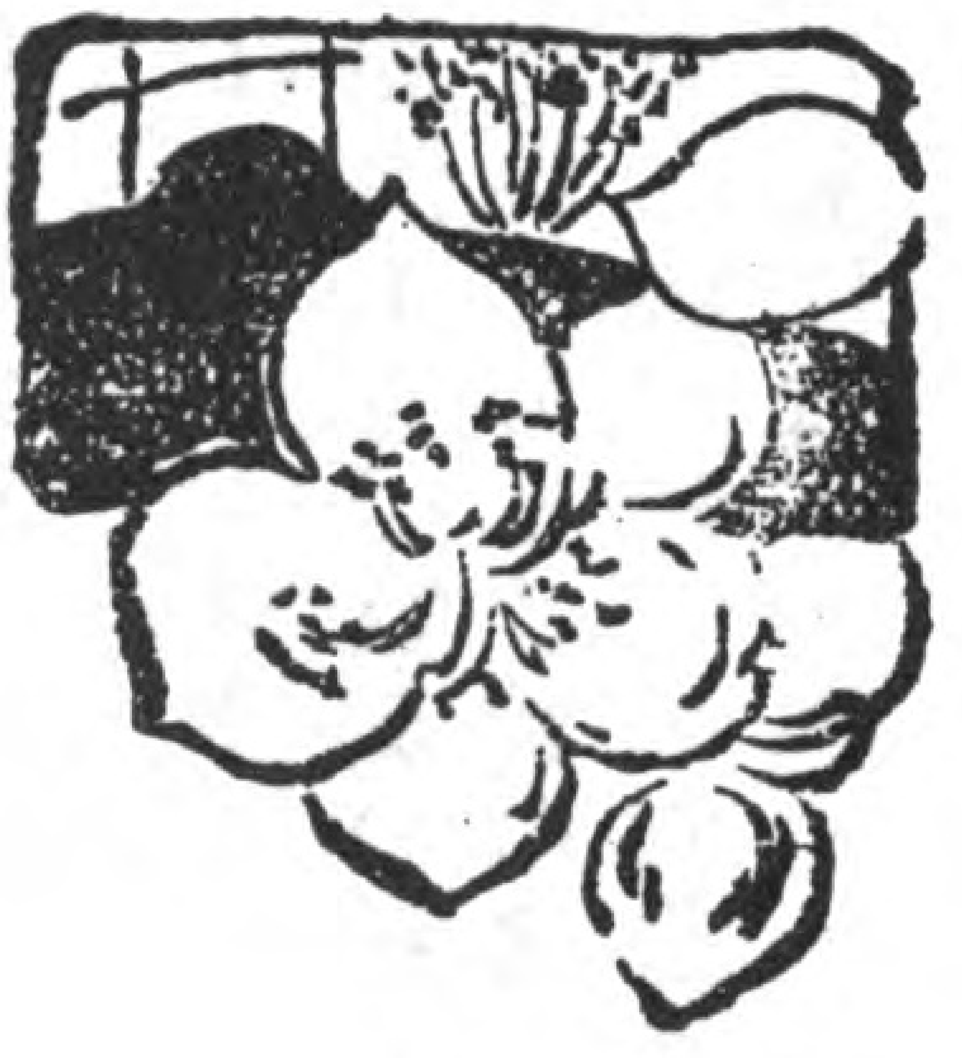
ウイリアム氏は殆んど四十萬人の海運從業員の首領で身の丈は六尺あつて、大きな口、突つた鼻、太い聲の持主で、一見野師のやうな風貌があると云ふことであるが、併し、一旦、演壇に立つた時に

はそう云ふ風がすつかり取れて、眞面目のかたまりになつてしまうそうである。で、英國勞働者の首領中で辯舌に於ては一流であるとの評判がある。
勞働界の大立物と、劇界の花形との結婚生活に永久の平和があることを遙かに祈る。

婦人の議會

倫敦の『デーリーメール紙』(五月七日發行)はマンチエスターのミルトルホールに於て開催された英國勞働婦人の議會に付いて報じてゐる。其處に集まつた婦人議員は五百二十三名あつて、そして其れは十九の勞働組合を始め、其の他の諸團體から、數萬の婦人を代表して出席したのである。其の婦人のうちには鑛夫の妻、娘、婦人の官吏、女流藝術家學者及び敎師などがあつた。

そして、取り扱はれた問題は、鑛夫の同盟罷業、アイランド問題、失業問題、家庭勞働問題、其の他いろ〳〵な問題であつたが、中でも婦人の官吏に付いて婦人陪審官に付いての問題が最重要なものであつた。則ち、官吏として、陪審官として男子と平等なる取り扱ひを受けようとすることを議したのである。と云ふのは或る種類の事件は婦人の面前では充分に取り調べが出來ないから、婦人陪審官の出席は控へて貰はねばならぬと云ふ意見があるからである。それに對して、如何なる事件にも婦人陪審官を除外することを不法とする法律を造れと云ふことゝそれから、どうしても云ふに困難な言葉を用ひねばならぬ場合ひには婦人陪審官は判事や辯護士の質疑を受けずに、いろ〳〵の證據物件を整理し、提出して陪審官としての義務を果すべきだと云ふようなことが主張された。



何故女性獨特の作用を恥づるか

人間の淺い智慧で性の別は無いと云つた處が、どんなに無視しようとした處が性の別は儼然と存在して居ります。殊に發情期からは其の別がいよ〳〵烈しくなります。けれども、其の別を無視しようとすることによつて、より多く苦しむものは女性であります。從つて、其の害も亦甚しいのであります。性別の撤排と云ふことが云はれる時は、必ず、男性を標準として其の水平線に女性を立たせようとするのでありますが、これは實際女性を輕んずる處から來て居るのであります。又、女性としての自覺も自信もない婦人は其のためにもがかなければならないのであります。

實際、今日の婦人の最大なる弱點は自信を持つて居ないと云ふことであります。女性としての自信がないので、あらゆる點に於て男性を模倣しようとする、けれども、もと〳〵異つて造られてあるものが同じことをしようとしても出來るわけはない。細かい仕事に適してゐる絹針が、模倣をしたい心から、絹物を縫ふと云ふ使命を忘れて、疊針の眞似をして疊を縫はうとしたならどんなものでせう。其の考への無謀であること、其の努力の無駄であることは、むしろ滑稽であります。徒に苦しんで結局自分を亡すのが落ちであります。それよりも、私は私としての使命があり價値がある、あなた方男にも男としての使命があり價値がある。と云ふ態度で居たならば自分も樂であるし、亘

つ又男女の間の調和も一層深くなり幸福の増進となります。

婦人は又女性としての自覺、及び、自信を持たないために自身の特質を恥ぢると云ふような傾向を持つて居ます。つまり、女性としての特別な作用は總して置かなければならないように思つて居たのであります。そして、これが婦人を一層因循にし婦人の性質に暗いかげを投げました。今日迄、多くの婦人が戀愛をまともに見ることを恐れてゐたのも、其の原因は矢張り此處にあるのです。もし、婦人が女性としての使命、及び、其の價値を自覺するならば、今日迄の婦人に多分にあつた暗いかげや、因循姑息な風はさらり取れて快活な進歩的な人間になることが出來ます。そして、今日迄のやうに『酒と女』と云つて女性を一種の男の娯樂品と見てゐた途方もない謬見を打破して、戀愛に對する尊敬も確定致します。

戀愛の意義を高調することは人としての墮落であるように今日迄は考へられて居たのでありますが、併し、戀愛を宗教化し、母性を重んずることは自然からの命令であります。なぜなら、婦人の考へ方の如何さ、婦人の欲望の種類によつて次代の國民は善くも惡くもなります。云ひかへれば、人類の進歩向上の鍵は婦人の手に委ねられてあるのです。婦人は人生に於ける最高な使命を托されて居るのです。人生の主體なる生命の保存と創造の役目を其の双肩に負ふて居るのであります。

此の頃の新聞紙上は、疑獄に續く、又、疑獄、殺人事件に續く、又、殺人事件で、世人は文字通りに驚愕して居ります。新思想家、社會改革家の熱心な努力にも拘らず社會は却つて逆に腐敗しつゝあるかのやうな觀があります。疑獄が起り、殺人事件が突發するに付いては、つまり、そうなる迄の經路にはいろ〳〵複雜な事情がからまつて居ることは勿論でありますが、併し、そうなるに付いての最大原因は、矢張り、其の人の性質にあります。

どんなに腐敗した中に入れられても、如何なる事情の下に置かれても、正義の觀念が強い人、人道的精神を多分に持つて居る人は斷じて疑獄を起したり殺人は致しません。要するに善人にはそう云ふ眞似は出來な

(四十一頁へ續く)



基督教が人心を納め得る一ツの秘訣

米國がまだ植民地であつた時分に瑞典系統の移民よりは英國からの移民の方がより多く成功したのは英國の移民は家庭を基礎に植民地を開いたからであります。英本國の家庭制度を米大陸に移し植へたために其の植民地であつたニューイングランド地方は忽ち成熟の境に達し、確實なる基礎を築き上げたのでありますが、これに反して、バージニア邊の植民は唯單に富を造るために移住したので愛もない家庭もない生活が移民の不滿足、強ひては、植民地としての失敗を招がねばならなかつたさ云はれてゐます。で、其の時の植民の指導者であつたサー・エドウィン・サンデースをして「我々は先づ何は置いても結婚を奨勵し、家庭を造らせ、移民の心を落付かせなければならない」と云はせて居ます。そして、移民の荒れ果てた心をうるほすために最初に九十人の娘達が本國から乘り込んで來たと云ふ話であります。

文明の發達には家庭が基礎であり、其の家庭は人間の二大本能、生殖慾と親たるの本能をもつて必ず造られるものであることは社會心理學者によつて夙に認められて居る事實であります。

基督教が人心を納め得る一つの秘訣は、其の教へが矢張り家庭を中心として居るからです。理屈にのみ走りたがる人は優美な聖母マリヤと基督の像を禮拜することを舊教の偶像禮拜だと云つて居ますけれども、實

は決してさうではなく、矢張り、あれは無形なものでそして、各人をして母と子を中心とし家庭に忠實ならしむるための一種の理想であります。家庭を通して表現される有力な感化力は永久の母と云ふ點でありますから。

無數の水源から集まつて來た川の水が、今西を向いて非常な勢ひで流れて居る時に當つて、其の方向を急に南に向けやうとしても其れが不可能であることを私も知つて居ます。けれども、無產階級の婦人が勞働界に押し出して行くこと及び、有產階級の婦人が家庭の仕事、則ち、母としての義務を盡すよりも社會的の仕事に又は交際により大なる意義があるやうに考へて居る其の迷夢は一日も早く覺されなければならないものであります。

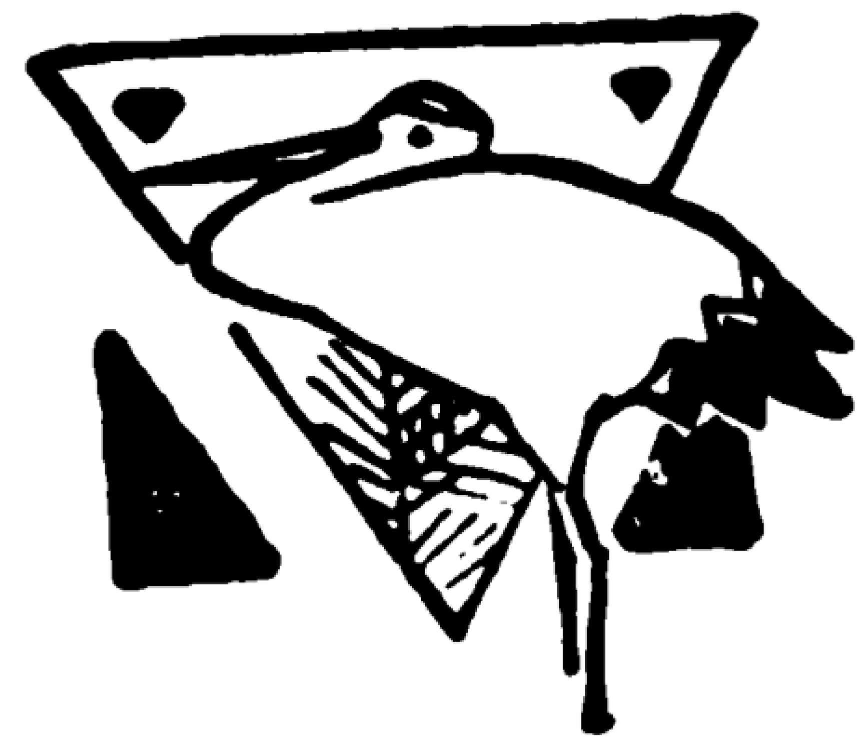
女性の勢力を大ふに社會に扶殖しなければならぬ時に今私共は到達して居るのでありますから、思慮あり、經驗あり、餘裕ある婦人が社會的に活動されることは望ましいのでありますが、併しながら、其の餘裕のない婦人が家庭を荒廢させて迄經濟的勞働に又は交際に社會的活動に從事することは、個人の立場からも社會の立場からも本末を顛倒した無駄な努力であるのです

（三十九頁より續く）

いのであります。そして其の善人を生み育てたものも、社會に害毒を流すやうな惡人を生み育てたものも皆婦人であります。

要するに、社會の腐敗は諸制度の缺陷にも其の責任があるにはありますが、併し、其の重もなる責任は人間の質にあるのです。ですから、社會の構造がどう云ふ風に改革された所が其れだけでは人類の幸福は增進しない。人間の性質が變りさへすれば制度は自然と變つて行く。そして、其の人間の性質を變へるに付いての責任は婦人が負ふものであるのです。

男尊女卑の習慣が全然男子の造つた謬見であると同じように、男女の差別撤排論も其の根底を全然誤まつたもので、自然の心意と云ふことに關して云ふならば男性よりも女性の方が遙かに重要な位置に置かれてあるのです。ですから。婦人は今迄『自分は女であるから』と云ふ言葉を自分を卑下した意味に用ひてゐたのに反して、これからの婦人は其の同じ言葉を人としての光榮である意味に用ひなければならないのであります。



新時代が要求する團體生活

今日迄、私共は『類をもつて集まる』つまり、ほぼ同程度の智力、又は、趣味をもつた人達があつまらなければ團結は難しいものと信じて居ました。けれども其の考へは實は皮相なものであつたのです。何故なら人間以下の下等動物は全く類をもつて集まつてゐて類を異にするものを奈然排斥します。そしてそれが彼等のうちに進歩がない原因であります。

其處で、一日一時も進歩して止むことのない人間は唯、類をもつて集まつてゐてはならない、お互ひの異つた點を自分々々に取り入れることによつて自分が大きくなり進歩して行かなければならないのであります。『あなたと私とはこう云ふ異つた點があるから一所には行けません』と云ふ代りに其の異つた點をお互ひに利用し合ひ、補足し合つて行きませうと云ふ風にならなければならないのであります。

舊い社會學は同類意識をもつて社會心として居ました。つまり、前に云つた『類をもつて集まる』と云ふことと、人間は模倣によつて自己の生活のかたを定めて行くと云ふのであります。けれども、これは集合的の思想、及び、集合的の意志の本當の性質を無視して居ます。なぜなら、一個人の思想、及び、意志が他人に傳つて行つても其れが直ちに社會的思想になるのではありません。社會的思想と云ふのは各人の思想が共通になつたものではなく、いろ〳〵の異つた思想が集つて、そして一つに「かたまつたもの」を云ふのです。

模倣は集合的生活の一要素であるには相違ありませ

ん。周圍と調和しようとする一つの手段であるに相違ありません。けれども、これは今迄餘り誇張されてゐました。同類意識と云ふこと、模倣と云ふことは社會思想を造る單なる一要素に過ぎないもので、本當に重要なる要素は差を持つてゐる者同志が相よつて、そして、お互ひのうちに喰ひ入ると云ふことです。ですから、模倣は個人と社會の間の隙間を繋ぐ橋だなどゝ云はれたものでありますが、實に、個人がお互ひに喰ひ入り合つて出來てゐる社會と個人との間にはそう云ふ隙間は無いのであります。

　實に社會の出來る中心は各人の「同じ」と云ふことではなく、各人がお互ひに喰ひ入り合つて、そして、お互ひに持つてゐる差を調和させることです。これをもつと正確に云ふと、各人の同と差は兩極端に相對峙するものではなく、其の兩者は切つても切ることの出來ない關係を持つてゐるものです。或る一つの刺戟に對して、甲の起す反動と乙の起す反動の間には其處にははつきりとした差があるに相違ありません。そして、此の差を統一するものが社會です。云ひかへれば、社會の出來る方法は、常に、或ることを承諾するとかしないとか云ふことではなく、各々がもつてゐる差を一つに纒みつけることです。そして、其の中に同じものも異つたものも入り込んで行つて納まつて行くのです。此處の消息を私共が會得した時に、私共は鞏固な有金な團體を造ることが出來ると思ひます。

　今迄の團體生活の失敗はお互ひの共通な點のみを見ようとしたからです。共通點は確に存在してゐます。遺傳、暗示、模倣が私共の間に共通點を造つてゐます。けれども、進步と云ふことが我々人間の慾望であり、又、使命である以上、私共は決して其の世間並みと云ふ處にぢつとして滿足しては居られません。私共の日々の生活と云ふ源は此の與へられた共通と云ふことを打ち破つて、そして、異つたものを造り出します。此の無數の抵抗出來ない命の流れが私共の生存です。つまり、統一、則ち、共通と云ふことは、唯、一分間の存在で次の瞬間には、もう、新しい差が生じるのが常です。そして、其の差は一層充實した、一層豐富な組合、則ち、團結でなければならないのです。

　勿論、私共は皆共通點を持つてゐます。大體に於て同じ興味、同じ目的を持つてゐます。けれども、これ

は私共が丼空氣を享有してゐると同じように餘まりに明らかな事實でありますから、今更にそれを取り立てゝ云ふの必要はないのです。此の先天的の共通ではなく、私共の努力の結果、差を適用し合つて其處に創造した共通點、そして、集合意志或ひは團體精神、其れに無限な價値があるのです。此處から進歩は始まるのです。

今、かりに、此處に一つの團體があるとします。もし、其の團體の生活が唯單に模倣であるならば其の團體の生命は無いのです。其處にあるものは衝突か、又は、默殺計りであるでせう。幼稚な時代であつた今迄は模倣が人類發達のために大きな要素でありました。けれども、今は其の時代は過ぎて益々模倣に抵抗しなければならない時に致達したのであります。なぜなら私共の精神生活の發達した今日凡ての活動は私共の内部から出立して居ります。

團體を造ろうとする時には、必ず、此の法則を了解して居なければならないと思ひます。そして、今日の私共の生活には此の團體精神が日中に於ける雲柱、夜間に於ける火柱であることを私共は了解して居たいと思ひます。此の團體精神のうちに私共の愛、私共の獻身的行爲も含んでゐます。併しながら、私共にとつて大切なことは或る程度迄私共が其の團體と自分とを同一視した時に團體精神が生れると云ふ事實を知ることです。或ひは、むしろ、私共の毎日の生活を團體と同視することによつて有力な團體精神が生れると思ひます。私共は個人としては決して他人を支配することは出來ません。又、自分が他人に支配されたくもありません。けれども、私共が團體精神を體得して居る時には他人を支配することも出來るし、又自分自身が他人に支配されるのを許すことが出來るのであります。

集合的思想、團體精神が進化して、そして、お互ひの持つて居る差が排斥されることの代りに尊重されるやうになつた時に、始めて新時代が要求する團體生活が有効に活躍すると思ひます。此の事實が認められた時に團體の力は有効になると思ひます。

お互ひにお互ひの差を自分に適用しては統一を造り、又。新しい差が出來ては新しい統一を造り、そして、これを繰り返へし〱してゐるうちに活動の範圍がだん〱廣くなり、だん〱強くなつて行くのであります。



或る民族と母權

男性の力、男性の權力が優勢である今日の社會に於ては、今日の此の男尊女卑の風習が自然であり、又天が定めた掟であり、正しい社會秩序であると多くの人が考へて居ると同じように、女權の優勢な母の位置にある婦人が最上權を持つて居る時代、又、社會では矢張り其れが自然であり、天の定めた掟であり、正しい社會秩序であると信じて居ります。

亞米利加土著の民と云ふと私共は直ぐに野蠻人を相像致しますが、併し、それは誤まつた相像で、現に今四萬計りの人口を持つて居るイロキー族はなか〳〵進歩して居る種族で、そして、その種族では昔の母系制度を今猶應用して居ると云ふことであります。或る時此のエロキー人の一人が文明人をもつて誇る米國人に一場の講話を試みて次のやうに云つたそうであります。

彼は、先づ、今日の文明國一般の男子を家長に戴くことの不自然を非難し、『家族關係に關する一切の權利が婦人の手にあるイロキー族のうちには、今、文明國で惱んでゐるような性的關係の問題、結婚の困難、獨身者、賣笑婦など云ふものは全然存在しない。世界至る處の文明國は女性を陷れ、人の精力を無駄に費し、而して文明を毒しつゝあるが、こう云ふ事實は我がイロキー族のうちには存在しない。であるから、我が種族は我等自らの文明習慣が他國のどの文明習慣にも優れりとして、それを保存することに極力努力して居る。』

で、或る婦人が

『併し、其のように一切の權利が婦人にあつたのではたまには婦人が其の權利を亂用したり、男子が其れに反逆したりするやうな場合がありはしないでせうか

？」と質問した時に、彼は、『婦人は民族の母でありますから、我々男子は、勿論、婦人の意志に從はなければなりません。』と答へた、それ以外の事は考へる必要もないと云ふような風をしてゐたそうであります。

又、ワイアンドツド族の政府は非常に巧みに組織されてあると云はれて居ます。則ち、内閣は四人の婦人によつて成立して居るのです。そして、此の四人は各戸の女家長によつて選まれるのです。其の四人の婦人が、又、一人の男子を選み、之れが族長の位置に登るのです。かくして、族長は男子でありますけれども、政治上の勢力は男子が全體の五分の一、女子が全體の五分の四あるのです。戰時に於ては勿論男子に或る程度迄の權力が出來ますが、この戰爭は男子の支配の下に、平時の政治は女子の手に委ねられてあるにとは本當に理想的だと云はれて居ます。

生物界に於ける雌雄關係

ウォードの說によると、生物學上の根本原理は單に自然の心意と云ふことに關して云ふなちば雄性よりも雌性が遙か重要なる位置に置かれてあつて、そして、自然の心意が明らかに現れてゐる下級生物の全體を通じて其れが夥しく示されてあります。たとへば、植物界に其の一例をとつて見ますと麻の如きは雄性は弱小で短命で、覺束ない生存をやうやく續けて居るに反して、雌性は强大に繁茂します。雌性が其の種を殘す役目を果してしまうと直ぐ雌性は雄性が根を張つてゐる場所に迄も侵入して行つて、そして、雄性を枯死させてしまふと云ふ勢ひでありますが、これと同じ雌性雄性の不平等は凡ての雌雄異株の植物に現れて居ります。

動物界に於ても、雌性が優勢であると云ふ例は澤山あります。そして、それは下級動物に最もよく現はれてゐて、下級動物は哺乳動物や鳥類とは其の雌雄の優劣を全く顚倒して居ます。女皇蜂はどの點から見ても雄蜂に優れて居ますし、且つ又、此の蜂族のうちの勞働者は勤勉な雌蜂であります。蜘蛛に於ては此の相違が一層甚しく、雌蜘蛛は雄の數倍と云ふ大きさでありのみならず、雄にはない美しい模樣を雌は其の體につけてゐるし、又、或る種類の雄は唯單に雌を孕ますためにのみ存在して居るようです。何故なら、雄の其の

役が終ると、直ぐ、雌は其の小さい匹偶（つれあひ）を捕へて食べてしまひます。

有脊動物のうちにも、雌性が雄性に優れた構造、及び、作用を享有してゐる例は少なくなく、そして、其の例は魚類、水陸兩棲動物、及び、鳥類の中に澤山あります。鷙類の雌は羽毛こそ格別に美しくはないが體は確かに雄よりも大きく出來てゐます。それから、亞米利加の駄鳥の雄は體こそ雌よりは大きく出來て居るけれども、併し、卵を温め、其れを孵化させ、そして幼鳥の重なる世話を皆してゐます。エミユーと云ふ巨鳥、及び、此の種族に屬する諸鳥も皆駄鳥と同じく幼鳥保育の任を雄性が負ふてゐます。

鳥類の中には何れの點から見ても兩性平等なのが少なくないに反して、哺乳動物の中には此の平等がめつたになく、人間界に於ては其の差違が益々烈しくなつてゐるのですが、其れに付いてもウオードの説によると、哺乳動物の雄性、及び、人間の男性は性的慾望の滿足を得るために熱狂した結果、彼等の個性を極度に發揮して奮爭した、其のために雄性及び男性としての破格な發達を遂げ、かくして、雄性雌性及び男性女性の間に不自然な差が出來てしまつた。であるから、此の性的差違は全く從出物で、變則で、不自然なものであると云ひ、そして、男優女劣論の基礎となつてゐる生物學上の過誤な事實、及び、其の誤まつた前提をウオードは破壞して居ます。そして、人類進歩と云ふ點からだけでも、女性の優越な點が減少しただけ、それだけ進歩は阻まれると云ふことを力説して居ります。

で、こう云ふ科學的の誤謬は神學上の誤謬よりも一層有害であること、又、何であれ自然であるものは最上であると確言する理由はないこと、凡ての社會上の眞の進歩は人爲的で、機械に如ける如く、法律も制度も皆人物的であること、そして、凡ての社會上の、物質上の進歩はあらゆる舊狀態を變更し改良するにあること、故に、祖先を完全なものゝ模範として崇拜する國民は、諺の通りに、老衰して不活潑であることをウオードは摘發し、其の上に、獅子でもなく、蛛蜘でもなく、又、穴居者でもなく、文明人である我々の男女關係の標準を動物に置いて居ることの愚を痛論して居ります。

時々の感想

原田琴子

○

ある人は私に云ふ、お前は小さい時からずつと順境に育つて來た、だから世の中の多くの女の傷ましい生活について何も知るところがない、男子の横暴や婦人に對して著しく片手落ちな社會制度に關しても一向無頓着でゐる、いつもよそ事のやうに冷淡に聞き流してゐる。若しお前が逆境に處して來たのであつたなら、決してそれではすまされなかつたのであらうにと。

或ひはさうでもあらうかと私は考へた、では私は自分獨り安らかな日を送り得さへするならば、他の多くの個性は如何あつても構はないといふのだらうか？ 私はかう自分の心に尋ねてみる、そして否々決してさうではないと答へる。

私は婦人雑誌なぞで、悲慘な運命に泣く女の實話といふやうな物語を幾つも讀んだ。また實際自分の周圍に居る婦人達の中に、女であるがために特にみじめなその日〳〵を送つて居る人々を見た、そして私の心は重苦しくされた。出來得るならばその人々の苦痛の重荷を輕くするために、その人々の幸福を計るために、暗い生活に光明を注ぐために、私に可能な何らかの寄與をしたいと考へた。ほんと

うに痛切に私はそれを思つた。

私は私の過去のある時代――女學校にゐた頃に社會主義の運動に加はらうかと考へたことがあつた、また救世軍に投じて生涯その事業のために働らかうかと考へたこともあつた、が何につけても考へるだけで實行力に乏しい私の性癖がそれを現實にさせぬうちに時はずん〲たつて行つた、そして私のその考へは別の方へ外れて行つた。

私は今過去の熱狂的で生一本で、しかも外界の事物に動かされ易かつた少女時代の自分を可憐に思ふ、然し如何に考へてもそれは過去の自分であるにすぎない、今の私は社會的な運動にどうしても關はる氣になり得ない。婦人參政權の運動とか廢娼運動とか禁酒運動とかさういふ社會的な事業に携はる氣になれない。

私生活を犧牲にして生涯をさういふ運動のために奉仕する特殊な婦人達に對して、私は心からの尊敬を捧げる、その人々の獻身的な熱情と所信と勇氣とを私は賛美する、けれども私は、假令汲みつくせぬほどの感謝と尊敬とをその人々の上に注がうとも、自分自身がその人々に追隨しようとは思はない。

私は深く深く自分自身を探る、そして私はさういふ社會的事業に携はるべく適當な性質を少しも持つてゐないことを知るのである、私には別の使命がある――いつも私はかう思ふ。自分自身を忘れて

馬車馬のやうに驅け出すことが私には出來ない。一人の人として女として最も大切なことは眞に自分自身を知り、自己の使命を悟り、それに向つて進むことであると私は思ふ。

○

世間の女の人は――と云つては言ひ様が惡いかもしれない、私の知つて居る二三の婦人達はなぜあゝ流行の衣裳に腐心するのかしら、あり餘る着類を持つて居ながらなほその上にもはやり物〳〵とこしらへてその度に徒らな費用と手數をかけて居る、なんのためなのか、ほんとうに氣が知れない――私はよくかう思つて嘆息したことがあつた。

然しこの頃になつて私は、さう思つてそれらの人々を見下したやうな、輕蔑したやうな自分の態度こそ却て恥ずべきものであるやうに考へて來た。自分の力で立派な衣裳をたくはへるといふことがなんのわるいことであらう！　その人にとつてはそれが唯一つのたのしみ、たゞ一つのよい事なのであらうもの、その人が他人に迷惑を及ぼさない範圍内に於て爲る事であつたら一向差し支へのない話である。一生の間に何べんと數へる位しか要らない丸帶なぞを幾本もたんすの引出にしまつて置くのは愚なことだと或る人はいふ。然しそれはよくも讀めない外國語の書物なぞを買ひ溜めてそのまゝ一年も二年も讀まずに書棚に並べて置く者の愚と大同小異ぢやないだらうか。徒らな費用と手數それはどちらにしても結局同じものではないだらうか！　私はかうも考へる。いゝ着物をきたい、買ひたい、

好きな書物を讀みたい、買ひたい、この二つの欲望はそれを抱く人々にとつては同じやうに切實なものではないだらうか。

衣裳に浮き身をやつす女の人々をともすればさげすまうとする自分の心を私は偏狹だと考へる、人めい／＼の嗜好と性向とを尊重しなければならないとも思ふ。

原田琴子さん。私もあなたが仰有つたことに似たやうなことを考へて居ました。一度、こしらへて置いた銘仙の着物を祝儀不祝儀にも着て行くし、講演に行くにも着るし、散歩するにも着るし、幾度寫眞をうつしても、容貌は年が進むに從つていくらかづゝ變つて來てゐるのに着物は決して變らないさ云ふような自分を標準に世間の婦人の着物に付いてかれこれ批評することは少し無理ではないかしらと云ふやうなことを。けれども、世間が衣食につまり目前のことに重きを置き過ぎて書物に對しては餘まりに冷淡であると云ふことも事實ですよ。これは二三日前の或る知人の話ですが、或る小學校の創立何十年の祝ひの一つとして圖書館を造ろうと云ふことになつて其の資金を町内から集めることになつたそうです。けれども、一軒から五圓の金を出させるのは容易でなかつたそうですが、其の五圓を出ししぶつた人でも祭禮の金を集めに行くならば三十圓五十圓と惜し氣もなく快く出すのだそうです。そして、それが一般であるやうです。今、四谷では祭禮をしやうとしてゐる處ですが、何萬と云ふ金を使つて御輿の修繕が出來たり、縮緬の揃ひの着物が出來ると云ふことで大騒ぎです。けれども、そんな金があるならば、町内の幼兒達が不潔な溝の傍で遊ばなくてもいゝやうな設備をしたり、小學校の運動場の設備をもつとよくしたいさ私は考へます。そしてこれは決して偏狹な考へではないと思ひますが如何でせう。

教育社會學講話（第五回）

交通

人間性のお話は前章で打ちきりと致しまして、此の章では交通と云ふことに付いてお話して見ようと思ひます。此處で申ます交通と云ふのは人間の心と心との交通と云ふことで御座います。

『心は或る意味から云ふと肉體の中に閉込められた捕虜のやうなものであるから、其の心を直接に知るものは其の心の持主なる自分だけである。であるから、其の心を他人に知つて貰ふには、どうしても、唇、顏、又は、手と云ふやうな使者が必要である。』

とベッツは云つてゐます。

『言語の發達がなかつたら、人間と他の動物との間の此の大きな智力上の差は出來なかつたらう。言語とは自分の考へを云ひ現したり、いゝしるしによつて人の考へを知つた

りするものであるが、其のしるしとは話や文章計りでなく、繪畫や有意義な手つきなどをも意味するのである』とワラスは云ひ。『我々の心のうちに潜む考へを我々は誰かに話したいと云ふ慾望を持つてゐる。我々の心に或る考へが起ると同時に、其の考へは何かしらの形の言語に包まれてしまつてゐる。』とスコットは云つてゐます。

又、ブーデンは、『社會的の氣分を味はうとすれば我々は先づ第一に他人を意識しなければならない。けれども、此の他人を意識すると云ふことは必ずしも目の前に他人を見てゐると云ふわけではない。他人の體は其處になくても他人の心が其處にある。則ち、詩の中に、科學の中に、又は、我々が聞いてゐる音樂の中に、或ひは、又、電信電話を通しても他人の心は我々の目の前に現れてゐる。我々は他人と相面しての會話よりも書物に我々の心をより多くひきつけられることがあるが、それは、書物の方がより強く人の心が現れて居るからである。』と

社會學に於ては此の交通、則ち、心と心との接觸を一人の人が他の人を刺戟する方

法をも含むような廣い意義にとつてゐます。かりに、其處に一人の人が動きもせず、ものも云はずに座つて居るとします。それは、其の人の何にかを忍耐して居るかたち、或ひは、又、空想に耽つてゐるかたちを周圍に傳へて居るのであります。或ひは、又、ホーマーの詩を讀むとします。それは三千年以前に生きてゐたホーマーの心と自分の心とが交通するのでありますが、併し、此の三千年以前の詩人と自分との交通には無數の人の仲立があります。つまり、ホーマーの詩は何世紀も〱の間人の口から口へと傳へられて來て、それから後に文字に寫しとられて、それから、又、それを編輯した人紙を製造する人、印刷する人、本屋と云ふように無數の人の仲立を通して、今、私共は三千年以前のホーマーと交通することが出來るのです。人から刺戟を受けると云ふことは非常に複雜でありまして、其の方法は直接に相觸れること、つまり、手を握り合つたり、接吻したり、又は叩いたりすることからも或ひは又、何千里と隔つて居る人間、又は、何千年過去の人間からも受けることが出來るのであります。

ですから、社會と云ふ言葉は集合すると云ふ動詞から來た名詞であります。其處で

社會學者が常に抱へてゐる社會と云ふ言葉の意味は、單なるもの、いか、則ち、地上に居る人間の群と云ふ意味ではなく、人と人との間に絶へず變化してゐる過程だと云ふことが出來るのであります。

交通ご個人の發達

人間は一人々々皆違つてゐるものであると云ふことは前章に於て述べましたが、其の違ひは顔かたちに於てよりも心に於ての方が大きいのであります。ですから、一つの心が他の心に觸れた時には必ず兩方に變化が起る、それは、丁度、二つ異つた原素に化學的の反應が起るのと同じであります。或ひは、又、果物に例へて云ふならば、人間の思想と云ふ果實を發達させるには心と心が接觸する必要がある、つまり絶へざる異花受精がなければならないのであります。ですから、生れると同時に野獸の手にかゝつて、野獸の中で育てられた人間は、かたちこそ人間でも心は野獸であると云はれて居ます。

他人の心との交通がなかつたら人はどんな風になるか、又、人は其れをどんなに必要とするかと云ふ例は澤山あります。人跡のない土地に居る開拓者はどんな人間が行つても心の底から歓迎する。人口の多い處に住んで居る人の習慣であるように人の紹介などは待つて居ません。或る人がたつた一人で山の中に三ヶ月居た。、或る時、不圖、獨言をしようとした時に其の人は自分の聲の響きにびツくりしたと云ふ話があります。其の人は僅か三ヶ月の間にもの云ふ術を殆んど忘れようとして居ることを其の時に發見して、そして、其の後はつとめて獨言することによつて、變態に陷ることを避けたそうであります。

聾者には特別な注意を拂つて話す術を發達させて置かないとツイには話すことが出來なくなつてしまうし、又、話すことも出來ず、聞くことも出來ないものには特別な教育を授けないならば白痴になつてしまいます。これに反して、たとへ、聞へなくても話せなくてゝ、他人の心との交通の道を開くならば其の心は完全に發達して行くものであることはヘレンケラーが充分に證明して居ます。

或る子供が四才の時に猩紅熱を病んだ結果聾者になつてしまいました。醫者の注意によつて其の子の母はつとめて其の子に話させて居ました。けれども、耳から聞くことがないのでいつの間にか話す習慣を忘れてしまつて手眞似で自分の意志を現すようになりました。後に、聾者の學校へ行つて話すことを强要された結果、教場では讀んだり、話したりしても友達同志では一切を手眞似でする、と云ふのは、自分が人の心を知るには一切手眞似を通じてゞあるからです。

又、想像の相手を造つて話をすると云ふ例があります、孤獨の人が動物や植物や其の外何でも自分の周圍のものに向つてものを云つて居る時には、自分自身に對して云つてゐるか、或ひは又、想像の相手に向つて云つて居るのです。理想の社會と云ふものも此れと同じで、唯、想像の上にいろ〳〵な人物を造つて踊らせる神話的なものだとサンタヤナ博士は云つてゐます。

家のうちに遊び友達を持たない一人子は想像上の友達を造つて遊んで居ると云ふ話があります。或る一人の少女は父も兄弟姉妹もなく、母と祖母と三人暮しでありまし

た。祖母は非常な老人であるし、母は讀書好きな靜かな人であるので、其の少女は何時の間にか自分の好きなお友達を想像の上で造つてしまいました。其のお友達は自分よりは二ッ計り年上で非常に美しい娘であつて、そして、少女は其の娘に自分の好きな名をつけました。そして、其の名を呼びながら數時間幸福に話したり遊んだりしてゐたと云ふことです。

又、或る少年は客間へ出て、そして、想像上のお客樣をもてなしては喜んでゐたと云ふことです。其のお客樣はいつも、既婚婦人で、夫は鐵道從業員で、いつも旅行してゐて、そして、其の少年の理想通りの美人で、其の上にお金持ちらしい名の持主であつたそうです。そして、其の少年は其の婦人客といろ〳〵な家庭内の面倒な問題に付いて話し合つて樂しんで居たのだそうです。其の少年は又旅行する時、或ひは散歩する時、いつも　想像上の友と連れ立つてゐて、其れが、又、非常に樂しいのだそうです。

彼は又、ロングフエローのものを非常に好んで、此の詩人のものを讀んでゐる時に

は此の詩人が優しい祖父で、そして大きな溫い手で自分を抱へてゐて呉れるような氣持ちがして居たそうです。もの云はない交通は文學の中でもこう云ふ風に行はれるのです。そんな風ですから、其の少年は本を買ふ時には繪の入つてゐないのを選んで、自分の好きなような繪を勝手に描いて樂しんで居たそうです。彼が長じてから手紙を書く時には、必ず、宛名の主が自分の傍に座つて居るつもりで書く、つまり、其の人が訪ねて來て居るつもりで書くので其れが又非常に樂しいのだそうです。で、彼は手紙を書くことを訪問と云つて居ます。

折々、人は孤獨の生活を選むものでありますが、これは人間に興味がないと云ふわけではなく、いろ〳〵な種類の人間の仲間になつてゐることは刺戟が多過ぎて耐へられない結果で、其の例として、クーレー博士はトーローを例に引いてゐます。そして『トーローは、始終、森林や野原を好んで居たが、其れは彼が人との交際を嫌つたからではない。彼の感情が餘まり強いので彼は人と離れて其の感情を休息させ、特種な方法によつて保護し、そして、其の感情を文學と云ふ間接な方法で表現させる必要が

あつたからである。如何なる人もトーロー程、多くの人と交通して、そして、充分なる表現を與へたり受けたりすることに努力したものはなかつたらう。』と云つてゐます

又、アイピッドは次のやうに云つてゐます。

『私は私の生活のうちに潜む富を人類に分け與へたい。私が持つてゐるものゝうちの最上なるものを與へたい。私は貝殼と共に眞珠を、蜂と共に蜂蜜を分泌したい、公衆の善のために。』と

自分の持つて居る或るものを人類の善のために熟させたいと云ふ慾望が、歴史に於ける、優れた人物の生活の一部分を孤獨に導きました。それは、人間との交通を絶つためではなく、人生の問題に對するよりよき答案を造りたいためであつたのです。社會をより正確に見る目は孤獨な生活をして居る人が持つて居ました。山の上に居たモーセ、泉のほとりに居たヌーマ、ワルデンに居たエマソンと云ふように。都を見度すためには人は丘の上に上ります。船の進む方向を定める人は檣の頂上に居ます。友人同志、一時別れると云ふことは友情を捨てることではなく、友情をより深くするため

です。ですから、眞面目に健全に進歩して行くには孤獨と交際の生活を交はる〳〵して行く必要があります。

『高尙な技術とか、又は、愛などゝ云ふものは周圍の混雜した狀態からは疲勞させられる。けれども、好奇心とか功名心とか云ふものは却つて、其の狀態から滿足を得る。或る青年が、親の後を繼いで財產家になつて、一生を山の中で暮すか、それとも、英か米の新天地へ出て無產者で暮すか其のどちらがいゝかと私に問ふた時、私は親の後を繼いだらよからうと敢へて云ふことをしなかつた。』と、ヴアラスは云つてゐます。

『群居の本能は一般に習慣から來てゐる。人は人の群の中に生れ、人の群の中で育つて居るから。そして、又、群の中に居ることが其の本能を强くし、其の本能の表現を廣くする。であるから、たつた、一人で閉ぢ込められてあることは餘まりに殘酷で餘まりに不自然だと多くの人に信じられてゐる。實際、普通の人にとつては、たつた一人で居らしめられることは最大なる苦しみである。高い修養のある極く僅かの人を除く外、大抵の人の慰安は自分が群集のうちの一人になることである。休暇を山の中で

静かに過そうとする人は二十人のうち、一人位ひしかあるものではない。普通の人の毎日の慰安は人通りの烈しい町を歩くことである。祭日の田舎の人の喜びは、普通、人ごみの中へ行くことである。』とボガルダスは云つてゐます。

交通の機械

クーレー博士は、人と人との交通を一つの機械だと云つてゐます。そして、此の交通は必ず或る仲介物を通さなければならないのです。一つの心が他の心を刺戟するために用ひられる仲介物は或るしるしを組織したものです。一部分は自然で、そして、大部分は因習です。で、此のしるしの組織が思想の世界を繰り返へして居ます、勿論それは不完全でありますが。丁度、思想の世界が實在の世界を繰り返へすと同じように。そして、クーレー博士はヘレンケラーが既でに七才になつてから如何にして不意にしるしの世界を發見したかと云ふことに付いて話してゐます。

交通の形式の細かな分類は普通には必要がないかも知れません。けれども、私共は、

少なくとも、二つの分類を承知して居なければならないでせう。則ち、言葉と、言葉でないものとの二つを。そして、此の二つを併合した、稍、複雜なかたちとを。で、次から、又、それを順々に話して行かうと思ひます。則ち、言葉の交通、言葉を用ひない交通、人格、劇、仲介物の選擇、交通に對する反應と云ふやうに。

　去年の夏から氣になつてゐた齒の治療にやうやく此の頃行くことが出來ました。處が、私が時間を惜しむのを知つてゐる齒科醫は一度に四本も神經をぬきました。うちへ歸つてからも頭がみだれてしまつてとても仕事が出來ません。私の心はすぐ或る婦人の方へ走りました。其の婦人は此の頃或る驛の賣店へ出て居られます。一寸御訪ねしたいと思ひながら其の意を得ずにゐたのでした。其處は東京市の中心を少し離れたむしろ小さい驛ですがお客があることへゆつくり話をしてゐる暇はありません。そして、『買ひたいものはないんですけれどお金をくづすために二三十錢買物をしませう。』と云ふお客が澤山ありました。其處で私は『あゝ云ふお客に私の雜誌を賣つて見て下さいませんか。』と賴みました。私は早速雜誌を持つて行きました。そして、賣店の中へ這入るとすぐ來ました。お金をくずためのお客が。それは髮を七分三分に分けた三十歳位の奧さんでした。しきりにあれかこれかと店の品物を物色してゐます。賣店の婦人は、『此の雜誌では如何です』と云つて私の手から取つて其の婦人に見せました。其の婦人は一寸雜誌の表紙と裏とを見て、『そうれ、けれど、これは一體何の雜誌ですか？つまらない雜誌なんぞよりキャラメルにしますわ』雜誌はそツ氣なく投り出されて其の代りにキャラメルが二ツ買はれて行きました。

『日本一の高級婦人雜誌』として筆者は勿論編輯者も內心誇りを持つて居るのですがむざむざキャラメル二個と見かへられる現實の世間を見せつけられてこゝの處少々悲觀の體で御座いました。

婦人と新社會

自一號至十號
四六版五百六十頁

合本

總クロース
金字入美本

定價貳圓五十錢

婦人と新社會は外の雜誌と違つて殆んど一人の手になるものであり從つて議論が一貫して居りますため揃へて持つて居たいと云ふ希望者が大分ありました、それで合本致しました。御希望のお方には實費貳圓五十錢で御分け致します。御希望の方は婦人と新社會社へ御申込み下さい。

本誌定價表

一册	六册	十二册
金二十五錢	前金 金壹圓四十錢	前金 金貳圓七十錢
送料五厘	（送料共）	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十年六月二十三日印刷納本
大正十年七月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

山田わか著譯書目

社會に額づく女（定價二圓三十錢）東京麹町區平河町六ノ一　耕文堂發行

女（マグダレン・マルクス原著）（定價二圓八十錢）東京麹町區平河町六ノ一　耕文堂發行

若き愛と智の眼覺（定價一圓二十錢）東京牛込區新小川町三ノ十九　日本社

婦人の解放と性的教育（定價七十錢）本郷區湯島天神町一ノ八二　東洋出版社發行

再版　戀愛の社會的意義（定價二圓）東京市四谷區南伊賀町四一　婦人と新社會社

女・人・母（定價一圓七十五錢）東京本郷春木町二丁目　森江書店發行

八時間勞働の理論と實際（ウイバー女史原著）（定價四十錢）本郷區湯島天神町一ノ八二　東洋出版社發行

愛と生活と（定價一圓三十錢）東京神田裏神保町六番地　三德社發行

賣笑婦の研究（マイナー女史原著）（定價一圓六十五錢）東京麹町區飯田町一ノ二　天佑社發行


中元御贈答品は三越の品
三越呉服店には、何方様にも喜ばれる中元御贈答品を澤山に取揃へて御座いますから、よい品で、何人もお喜びの三越の品が御進物用として正に第一品です
商品券
は東京、大阪、京城、大連の三越の何品にても御取替が
お自由ですから、中元御贈答品には非常に重宝かと存じます
兒童博覽會
七月一日より八月九日まで
七月の定休日
七月十一日
七月二十五日
東京
三越呉服店